



2011 Vol.18

awa onna akindo juku

おんなあきんど塾

AWA

AWAおんなあきんど塾・徳島市主催

特集 きらめく女性大賞

最終選考会・表彰式開催

きらめく女性たち、
きらめく徳島を目指して!!

きらめく女性たちの
活躍をご覧ください。

- 未来の子どもにもきらめく徳島を
- ~踊る! NHK大PR作戦~
親しみある放送局を目指して、お客様の笑顔をつなぐ
- モノ作りで、人とモノと地域をつなげる
- 一生に一度の大切な日、「最高にきらめく花嫁」をプロデュース
- 女性が仕事を続けてよかったと実感できる環境を
- 徳島の野菜・果物で、からだの中から元気にキレイに
- チームウーマンリーは、徳島の女性をもっとキラキラ・イキイキ輝かせます
- 愛娘の存在が私の元気の源
- 温室効果ガス削減に向けた賢明なライフスタイルの確立
- これからの女性のあり方、夫婦のかたちを求めて



経済と文化の融合2011
イラストレーター・中本真理子さん

awa onna akindo juku Vol.18 Spring 2011

発行 株式会社アワード
お問い合わせ先 徳島市経済政策課 徳島市幸町2丁目5 Tel.088-621-5225・5226 <http://www.nmt.ne.jp/> akindo/ 株式会社アワード



work 2007 Sunny day [Post Card]



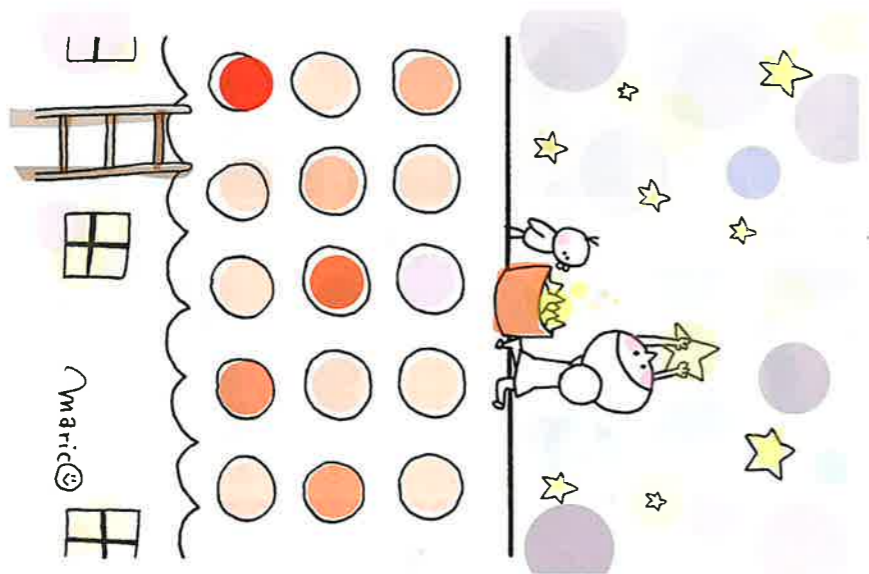
marico*

work 2008 Thank you [Post Card]



marico

work 2009 Good Night [Post Card]



marico

awa onna akindo juku Gallery

作者名/中本真理子

第1回 きらめく女性大賞 ～最終選考会・表彰式開催～



きらめく女性たち、きらめく徳島へ

徳島市とAWAおんなあきんど塾では、これまでさまざまな分野で一生懸命に頑張っている女性にスポットを当てることで、新たな起業やさらなる活動を促進して地域経済の発展につなげることを目的とした「きらめく女性大賞」を創設しました。

対象者は、徳島で働いている人で●一生懸命に頑張ってステップアップしている女性●事業やプロジェクトなどを仕掛けた女性●現役で活躍している女性（経営者および起業家を含む）などです。

そして第一次選考（書類選考）を経て最終審査へと進んだ10名のプレゼンテーションと公開審査を平成23年2月19日（土）の午後5時よりふれあい健康館ホール（徳島市生涯福祉センター）で開催しました。徳島を元気づけ、地域の発展につなげようと活動している女性たちの活躍をご覧ください。



●女性が仕事を続けてよかった実感できる環境を
日本システム開発株式会社
管理部 チームリーダー 白川 孝枝



●～踊る NHK大PR作戦～
親しみある放送局を目指して、お客様の笑顔をつなぐ
日本放送協会 徳島放送局 企画総務 磯部めぐみ



●チームウーマンリーは、
徳島の女性をもっとキラキラ・イキイキ輝かせます
トヨタカーローラ徳島株式会社
営業推進部 推進グループ 中村 知春



●一生に一度の大切な日。
「最高にきらめく花嫁」をプロデュース
株式会社エイチオーエス ルネッサンスリポートナルド
ウエディングセールス&プランニングマネージャー
堀崎 桂子

プレゼンテーション・公開最終審査



ごあいさつ

徳島市長
原 秀樹

女性の社会進出を促進する環境づくりの一環として、女性経営者の知恵とアイデアを活用するため、市内各業界の女性経営者に参加を呼びかけ、平成7年に結成された「AWAおんなあきんど塾」と協働で、女性起業家の育成や社会進出を応援するため、さまざまな事業を行っています。

この「きらめく女性大賞」は、地域経済の活性化に向け、徳島の企業などいろいろな分野で一生懸命に活躍されている女性を顕彰するものですが、昔から「阿波おんなは元気で働き者」と言われ、また、徳島は女性社長の比率が全国一でもあるように、生き生きと働くすてきな方々がエントリーされました。

選考会では、そんな元気いっぱいの「阿波おんな」の皆さまから、アイデアと行動力あふれるプレゼンテーションをいただき、まさに、限りない「きらめき」を実感いたしました。

生き生きと輝く徳島の女性の皆さまの更なるご活躍をご期待申し上げます。



●徳島の野菜・果物で、
からだの中から元気にキレイに
ベジ・キッチン歩菜 代表 佐藤ひろみ



●モノ作りで、人とモノと地域をつなげる
atelier chato 代表 川久保貴美子



●未来の子どもにきらめく徳島を
徳島活性化委員会 株式会社Yasasee
代表 内藤 佐和子





審査員からの感想

各プレゼンテーションを終了し、難しい審査をされた7人の審査員の感想を一言うかがいました。(掲載は50音順)

NHK徳島放送局 局長 **大塚 幸雄氏**

素晴らしいプレゼンテーションをして頂き、皆さんありがとうございます。本当に僅差であり、点数に差のない状態で3名の方を選出させていただきましたが、皆さん本当に素晴らしかったと思います。

四国放送株式会社 報道情報センター長 **岡本 和夫氏**

本当に素晴らしい活躍をされておりますが、皆様にはより一層頑張ってくださいと思います。賞に入らなかった方もいますが、本当に素晴らしい皆さんのプレゼンテーションを聞かせていただき、徳島が楽しくなりそうだなと思いました。

公益財団法人徳島経済 研究所主任研究員 **蔭西 義輝氏**

女性の方々がこれだけすごいのかと吃驚いたしました。私どもも徳島県の経済の活性化に向けていろんなことをしていますが、皆様には徳島県の飛躍の一助となっていきたいと思っておりますので、これからも頑張ってください。

社団法人徳島新聞社 編集局経済部 部長 **喜多條高資氏**

本当に良いプレゼンテーションを聞かせて頂いたと思っております。日本には今、これからどうなるのだろうという閉塞感が漂っています。しかし、女性が頑張ってくれれば、もしかするとまた輝く日本がくるのではないかと、そのためにも阿波女に頑張ってもらいたいと思います。

徳島市長 **原 秀樹**

点数を付けるのに本当に悩みました。土俵が違うとか、それぞれのステージで頑張っておられ、結果的には3名が選ばれましたが、それぞれに素晴らしい活躍をされており、今後とも輝く女性として頑張ってください。

日本貿易振興機構徳島 貿易情報センター 所長 **穂田 幸子氏**

皆さん素晴らしい方ばかりで点数を付けるのが難しかったのですが、立場上、グローバルという視点で点を付けさせていただきました。これからグローバルにご活躍されることを祈っており、今日は皆様からキラキラ感を少しいただいたような気がしております。

徳島市女性管理職 (障害福祉課長) **箕浦 啓子**

皆さんは自分の世界をお持ちになっており、内面から出てくるような自信を感じました。それがまさに、きらめきだと思います。これを原動力として、皆さんこれからも頑張ってください。



**阿波おんなたちの
更なる飛躍に
期待します**

きらめく女性大賞審査委員長
AWAおんなあきんど塾 キャスト
(株)クラッシー 代表取締役
植田 貴世子

「Aおんなあきんど塾として活動をはじめて15年となります。

今年は念願であった輝く女性にスポットライトを当てようという活動が日の目を見まして、第1回目の「きらめく女性大賞」を内藤さんが受賞されました。

この日を迎えるまでには、エントリーいただいた方々や推薦いただいた方々など、たくさんの方のご協力をいただいて開催することができました。是非、この賞を今後も継続して街の中で、企業の中で、女性の方々の中で、今年の女性大賞は誰かと話題になる、励みにしていただける、そんな意義のある賞にしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力やご理解をいただきたいと思っております。

第1回目ではありますが、エントリーいただいた方には素晴らしいプレゼンテーションをしていただきました。

よく阿波おんなに讃岐おこと言いますが、「アワサヌキ」というのは古代語だそうで、アワは女性性を意味し、サヌキは男性性を意味する言葉だそうです。阿波おんなというのは、まさしく女性性を象徴しており、エントリーいただいた皆様は、その阿波おんな振りを大いに発揮して、世界に貢献していただいていることを確認させていただきました。エントリーしていた方は、どなたもきらめいていますが、今回は3名の方を選ばせていただきました。この賞を励みに語り継いでいただき、この賞の後輩を生み出すお手伝いをして頂ければと思います。

本日も来場の皆さまにおかれましては、最後まで審査会にお付き合いいただきありがとうございます。

これからもAWAおんなあきんど塾を応援していただき、徳島の女性の輝き度にも注目していただきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。



「きらめく女性大賞」初代大賞に徳島活性化委員会代表の内藤佐和子さん＝同市＝が選ばれました。次席の徳島市長賞にはNHK徳島放送局企画総務で「阿波おどりプロジェクト」に取り組む磯部めぐみさん＝徳島市徳島本町1＝、第3席の徳島新聞社賞にはatelier cheto代表の川久保貴美子さん＝北島町中村＝が選ばれました。三人のプレゼンテーションと受賞の喜びをご覧ください。

プロフィール／内藤佐和子(ないとうさわこ)さん

2010年3月東京大学法学部卒業。2006年の難病宣告後は、携帯のコンテンツ企画やECサイトでのブランド販売など、数社のベンチャー企業で働く傍ら、ダイヤモンド経営者倶楽部で数々のイベントを仕掛ける。ダイヤモンド社学生記者クラブ創設時から活動。2009年10月には徳島県知事を審査委員長とし、徳島活性化コンテスト2009を開催。また同月には『難病東大生』を出版すると同時に株式会社Yasasee代表取締役役に就任。『難病東大生』は2011年3月に漫画化された。ビジネスコンテスト経歴：TRIGGER2008優勝、TRIGGER2009ファイナリスト、GE特別賞、CVG2008リそな銀行賞、CVG2009ファイナリスト、医療ビジネスコンテストBRIDGE決勝進出。



徳島活性化委員会 株式会社Yasasee 代表 **内藤佐和子**さん

未来の子どもにもきらめく徳島を

私はアメリカ留学の1年を除く18歳までを徳島で過ごし、東京大学へ進学しましたが、進学後すぐに、難病を宣告され、夢であった弁護士を諦めるように言われました。

2009年に『難病東大生』を出版し、昨年12月にはTED(国際会議)で日・米・英で活躍する各国10名の女性の代表の一人に選ばれ、ワシントンDCで自身の起業や徳島についてジャーナルを発表し、この年に徳島に帰ってきました。

徳島の活性化に関してですが、以前同窓会で帰省した時に徳島の若者文化が崩壊しつつあるという現状に愕然としました。例えば、同窓会後にブリクラを撮ろうと思って夜にまちなかで撮りに行く場所が無い。例えば、映画を観るにしても学生は自転車に乗って一つしかない映画館まで走らなければ映画も観ることができない。例えば、気軽に集まれるファストフード店も減っている。例えば・・・と数えだしたらきりがなく若い若者たちが集まれる環境が少ない。これは徳島に限ったことではないと思いますが、各地方都市も同じ様な現象が起こっていると思います。遊ぶことのできるまちなかが衰退し、スプロール現象が生じています。徳島の未来を考えると若者たちが根付かないような徳島では、未来は無いと考えました。現に徳島県は起債許可団体であり厳しい財政状況下に陥り、もしかすると財政破たんが起こるかもしれません。

そんな思いにかられ、私に出来ることは何かと、行政だけでなく民間の力で何かできないかと考え、大学在学中の2009年から徳島活性化コンテストを開催しています。このコンテストは全国から大学生を募り、徳島の大学生や地元で活性化に取り組んでいる地域の人々と一緒になって構想を練り実践しようとするものです。昨年は土成の恋成たらいっどんチームが最優秀賞を獲得しています。

徳島活性化委員会では、今述べた徳島活性化コンテスト、徳島市のまちなかキャンパスで中心市街地を活性化させるためのイベントや「就徳クーポン」の発行、また徳島ヴォルティスと集客プランを考える活動など、昨年度は様々なプロジェクトを行いました。今年度も面白い企画を構想しています。

今ならまだ間に合います。一人ひとりが問題意識、危機意識を持って、本当にこのままでいいのか考えて、自分なら何が出来るかを真剣に問う時期だと思います。徳島の未来「きらめく徳島」をいかに創出していくか。そのためには、先ほどお話ししましたが行政は財政難ということもあり、行政だけに期待するのではなく、個人個人が徳島をどのようにして良くするかを考え実行していくことが必要です。その実行の役に立つなら、私たちは色々なコラボレーションをしていきたいので、協力できることがあれば一緒にやっていきたいと思っています。行政と民間がつながって、いかに面白いことをやって若者を盛り上げ、徳島を盛り上げていくかが重要だと思います。

●受賞の喜びとこれからの活動

ありがとうございます。本当に受賞できるとは思っていませんでした。これも共に様々なプロジェクトを立ち上げてきた、多くの仲間の支えがなければ、続けてこれなかったと思います。仲間たちにも感謝します。そして、私もこの5月に出産し、母親になりました。私の子どもが生き生きのびのび育ち、この徳島を愛してくれる。そんな「きらめく徳島」になってくれるよう、これからも頑張ります。

～踊る! NHK大PR作戦～

親しみある放送局を目指して、お客様の笑顔をつなぐ

2007年8月、NHKの会館阿波おどりはスタートしました。私は、この年NHKに入局したばかりの新人でしたが、このイベントの企画・運営に最初から携わってきました。このイベントにける私の思いと4年間の軌跡をお話したいと思います。

イベントの舞台となっているNHK徳島放送局は、2006年10月に現在の地に移ってきました。放送局の1階ロビーのガラス面を取り払うと、ロビーの内外が一体となり演舞場に大変身します。これは、設計段階から考慮されており、阿波おどりへの特別な思いがあったのです。阿波おどりを生で見たことも踊ったこともない素人の私には、イベントのコンセプトをどうするかが大きな課題でした。そして、「昼間をねらえ」つまり夜が本番の阿波おどりを昼間も楽しんでいただく機会として、このイベントを立ち上げました。一番の魅力は踊り手との距離の近さですが、大人だけではなく子供たちが楽しめるちびっこ向けのイベントも好評です。さらに観光客にとって思い出に残るのは体験することであると考え、初心者のための阿波おどり講座を行い、にわか連として踊っていただきました。こうした趣向により年々リピーターが増えており、青空のもとで踊る阿波おどりとして各連には昼間踊る場として、観客には迫力ある踊りの場としてのイベントになっていると実感しています。

観光客が「来て、見て、楽しい」イベントとして、これまでに約1万8000人が訪れており、体感・阿波おどりは年々進化をしています。私の仕事は裏方ですが、イベントにける熱意は踊り手にも負けません。そして多くの踊り手と観客の笑顔が私の活力です。これからも地元の方と一緒に、この徳島を盛り上げるイベントとして体感・阿波おどりを益々パワーアップしていきたいと思っています。



日本放送協会 徳島放送局 企画総務 **磯部めぐみ**さん

●受賞の喜びとこれからの活動

このような賞をいただき、ありがとうございます。私ひとりの力でなく、共に仕事をしてきたスタッフの思いがひとつになった結果だと思います。そして、これからも徳島に貢献できるような仕事をどんどんしていきたいと思っています。

モノ作りで、人とモノと地域をつなげる

私はバッグ、帽子、洋服、雑貨などを創作するクリエイターをしており、作品は直感で感じたものを形にしています。作品は装飾品であると同時に実用品なので丁寧な縫製を心がけています。作品を発表するイベントや販売する場所を探し、フリーマーケットにも参加しましたが、手作りの良さを正当に評価して貰えませんでした。

ここで誤解を恐れずにいいますと、徳島にはクリエイターの創った作品を発表する場所があまりにも少なく感じます。また、クリエイティブな文化的意識も低いように思いました。そこでプロのクリエイターが活動できるクオリティの高いイベントの開催。そして徳島のモノ作り文化の向上を図りたいと思い、2008年に「徳島クリエイターズマーケット」を立ち上げ、代表としてプロデュースをしています。イベントは地域活性化という視点から東新町商店街、徳島阿波踊り空港などでも開催し、毎回多くの人が集まるようになりました。

また、イベントのクオリティを維持するために、フリーマーケットとは一線を画すべく、独自の審査基準によって出展者の絞り込みを図っていますが、県外からの出展希望者も回を追うごとに増えています。昨秋の阿波踊り空港でのイベントは、雑誌「ワイヤーママ」とタイアップし、ママさんクリエイターの発掘をしました。クリエイターは自宅で作事ができ、大きな初期費用もいらず、子供がいても安心して仕事ができるので、女性の働く場所としての可能性があると思います。

私は出展する人には値引きせず、自分の作品に自信を持ちましょと訴えており、その結果、クオリティの高いイベントとして認識されてきたと感じています。さらに毎月1回、東新町のまちなかキャンパスからユーストリーム番組を配信し、クリエイターの魅力を伝え、また、海外プロジェクトチームを結成し、徳島のモノを海外に発信しようとしています。モノ作りは本当に楽しいものです。私はモノ、人、地域を繋げ、徳島をもっと盛り上げていきたいと考えています。



atelier cheto代表 **川久保貴美子**さん

●受賞の喜びとこれからの活動

素敵な賞をありがとうございます。この賞をいただいたことは、私は一人で受賞できたとは思っていません。共に出演してくれた、クリエイターの皆さんが集まって、頑張ってくれるからできることだと思います。本当に感謝いたします。そして、これからもクリエイターの皆さんとともに、モノづくり徳島を発展させていきたいと思っています。応援よろしくお願いします!!

一生に一度の大切な日、「最高にきらめく花嫁」をプロデュース



(株)エイチオーエス
[ルネッサンスリゾート ナルト]
ウェディングセールズ&プランニングマネージャー

塩崎 桂子さん

私は1991年4月に入社し、旅行事業部に配属されましたが、2年後にはルネッサンスリゾートナルトに転勤を言い渡されました。転勤後の私が最初に興味を覚えたのは阿波踊り、翌年には連日入り込んで踊りました。もちろん遊んでばかりではありません。阪神大震災の影響を受けお客様が減少し、新たに観光目的のお客様を誘致することになり、阿波踊りの体験や徳島の食材を使ったお料理など地域色を前面に打ち出し集客に成功しました。

その土地の食や文化、歴史をもってすれば必ずお客様に喜んでもらえることを身をもって体験し、その後の仕事にも生かすことができました。大阪本社に戻り、1997年7月に企画広報マネージャーとして再度鳴門に転勤し、初めて部下を持ちました。前年に明石海峡大橋が開通した経緯もあり、ドラマ

の撮影や雑誌、テレビ番組の取材などが絶えませんでした。二度目の徳島では業務以外に、「鳴門市観光振興計画策定委員会」、「新鮮なっ!とくしま大使」としての活動や体験は、自分にとって大きなプラスになりました。

2006年より石川県山中温泉の旅館開業に携わり4年後の昨年10月にプライダル部門のマネージャーとして鳴門に戻ってきました。私自身、プライダルは新米で勉強中ですが、ルネッサンスリゾートには開業以来の歴史と信頼があるということ、私のまわりにはウェディングという仕事に喜びと誇りを持って働いている素晴らしいスタッフがいることを信じてルネッサンスブランドのホテルだからこそできる上質なおもてなしウェディングで、これからも「最高にきらめく花嫁」をプロデュースしていきたいと思っています。

チームウーマンリーは、徳島の女性をもっとキラキラ・イキイキ輝かせます



トヨタカラー徳島(株)
管理本部 総務グループ

中村 知春さん

チームウーマンリーは、2007年10月、社内公募で年齢も職種も違う個性豊かな女性10名で結成され、チーム名には女性性としての心遣い・思いやりをという意味が込められています。徳島は女性ドライバーの比率が全国5位と高く、女性ユーザーが増えていますが、店舗を訪れにくいという女性からの意見も多く、女性ユーザーのニーズに対応する必要性を感じ、私たちのチームウーマンリーが立ち上がりました。

チームの目的の一つは、「営業成果につながるモノづくり」です。女性ならではの視点からウーマンリーのオリジナル仕様車としてルミオンを2007年に、翌年にはパッソをそれぞれ限定発売し、当社の苦手分野であった女性層の獲得につながりました。二つ目は「CS向上につながるファンづくり」で、

女性の口コミを生かした新しい女性市場の開拓です。結成以来、隔月で女性限定のパーティを開催し、参加者とスタッフ、参加者同士のコミュニケーションの図れる内容を心がけ、結成1周年にはアスティ徳島で女性向けのイベントを開催し、約5000人を動員することに成功しました。

パーティ参加者は口コミが増えており、今では毎回定員を上回る応募をいただけるようになり、ご協力をいただいている企業との交流も増えています。

三つ目は「ES向上につながるヒトづくり」で、女性社員の仕事の幅を広げ、仕事にやりがいを感じて貰うことです。私たちの活動がモノづくり、ファンづくり、ヒトづくりにつながり、徳島になくはない自動車販売店になれればと思っています。

女性が仕事を続けてよかったと実感できる環境を



日本システム開発(株)
管理部 チームリーダー

白川 孝枝さん

私の勤めている日本システム開発は、今年で37年目を迎えます。私は1995年に入社し管理部に所属し総務、労務、経理、購買などの幅広い業務に従事しています。この間に二人の子供を出産し、周りの方に協力をいただきながら仕事を続けています。

私たち中小企業は大企業と違い、専門家に任せることなく、自分たちで担っていくことが多く、プライバシーマークの取得や人事評価制度の策定なども自分たちで作りに上げていきました。チームリーダーになってからは、人に動いてもらうにどうすればよいかというのが一番の悩みでした。こうした難しい仕事だからこそ、最後までやりぬいた時の達成感や、みんなと一緒にやっていく連帯感、自分をとても大きく成長さ

せてくれていると感じています。

私どもの会社は仕事の性格上、女性社員が少なく60名の社員の内女性は10名です。仕事と家庭の両立についての悩みを聞くこともあり、会社の規模などに関わらず女性が仕事を安心して続けることのできる環境作りの必要性を感じています。

徳島は女性経営者の多い県だと聞いていますが、女性が仕事を続けてよかったと実感できるような社会の実現は、今後、必要不可欠であり、それを徳島から発信できることは、徳島の産業の競争力強化の観点からも非常に意義あることだと感じています。私にできることは微力ですが、女性が仕事を続けてよかったという職場作りや環境作りを応援していきたいと思っています。

徳島の野菜・果物で、からだの中から元気にキレイに



ベン・キッチン歩業 代表

佐藤ひろみさん

私は主に野菜ソムリエとして活動しております。野菜ソムリエの役割と目的は、生産者と生活者の橋渡しを行うエキスパートであり、農と食を次の世代に継承すること、そして、野菜や果物の魅力や楽しさを発信することです。

野菜・果物には食べ方、保存方法、栽培方法、栄養価、生活習慣病との関係など多くの魅力が隠されています。徳島マルシェなど、様々なイベントでは、徳島の顔の見える生産者さんの作ったものを対面販売しながら野菜・果物の楽しさを多くの方に伝えています。

野菜・果物には「旬」があります。最近は季節を問わずいつでも食べられるようになりましたが、本来は育つべき時に成長すると強く育ち栄養価も豊富です。自然の流れに沿ったエネルギーがしっかり詰まった旬の食材は、健康的に身体づくりをサポートしてくれます。野菜・果物の魅力を知らない

で食べるより、知って食べると感動や発見があります。より身近に野菜・果物を感じることが出来ます。自分自信が野菜を育ててみてわかったこと。生きることは食べること、食べるものにも命があって、その命に感謝し続けたいと強く思いました。豊かな自然環境で育った徳島の野菜・果物。

旬の野菜と一緒に歩むという思いから「歩菜」という野菜のレストランをオープンしました。魅力ある野菜・果物で、色々な食べ方のバリエーションを提案し、徳島の文化も伝えながら、美しく、健康になるということをテーマにしたお店です。ストレスフルな社会の中で身体と心のバランスを崩さず、心地よく快適な暮らしができるお手伝いをしたいと思っています。そして私自信も、自由で豊かでいつまでもきらめく「旬」であるような人生を送ろうと思っています。これからも、魅力あふれる徳島野菜を応援します。

娘の存在が私の元気の源



四国放送 アナウンサー

物部 純子さん

アナウンサーという仕事は、毎日、皆さんにプレゼンテーションをしているようなもので、見て聞いていただいて評価していただく仕事だと思っています。今、私がお伝えしているこの場所が「フォーカス徳島」のスタジオです。毎週月曜日から金曜日の午後6時16分から、この場所でのニュースをお伝えしています。

私は「フォーカス徳島」を担当して2年目になります。入社して初めてのニュース番組ですが、取材先でどんな表現をしたらよいのか、どのように見せたらいいのか、どんな構成にしたらよいのか、どうしたら皆さんニュースを伝えることができるのか、まるで新人のように悩んでいます。悩みながら反省して家に帰るのですが、その悩みを解消してくれるのが愛娘です。娘は今小学3年生、9歳になります。

■物部純子さんは当日プレゼンテーションに参加できなかったためDVDでの発表です。

幼稚園くらいまでは、中耳炎、インフルエンザ、おたふく風邪などで熱を出しよく病気をしていました。仕事から帰って夜間の病院に連れて行って、徹夜で看病したこともあり、仕事と育児の両立に不安を感じたこともありました。しかし、今思うとそういう時期もあっという間です。今は娘の存在が、私の元気の源となっています。毎日の放送で心がけているのがプロ意識です。「フォーカス徳島」は大きなプレッシャーがありますが、とてもやりがいのある充実感を感じる番組です。その番組を担当させて貰っていることに感謝し、プロのアナウンサーとしてしっかりと県民の皆様にニュースを伝えていかなければならないと思っています。皆さんに信頼され、愛されるようなアナウンサーを目指し、これからも日々精進していきたいと思っています。

温室効果ガス削減に向けた賢明なライフスタイルの確立



四国大学 生活科学部 助教

三谷 直子さん

CO2排出量が増え続け、約30年に一度という災害が毎年のように起きていますが、家庭部門におけるCO2排出量の増大を無視できません。家庭部門における温室効果ガス削減に向けた賢明なライフスタイル確立に向け、私は三つの重要な要素があると考えています。

一つ目はライフスタイルの改善に向けた気づきの動機づけです。これまでのような一方向型ではなく、対話とコミュニケーションによる双方向型の手法を用いることにより、温室効果ガス排出量の削減の可能性がおおいにあります。二つ目は早期からの環境教育の推進です。大量生産・消費・廃棄に慣れた大人世代のライフスタイルの変更は難しく、持続性も高くありません。幼稚園などで早期から低炭素型ライフスタイルに関

■三谷直子さんは当日プレゼンテーションに参加できなかったためDVDでの発表です。

する教材を用い、それを身に付けていくことが重要です。三つ目は産学民間協働活動を活用した開かれた知識や技術の導入です。「とくしま環境県民会議」や「徳島県地球温暖化防止活動センター」には、多様な分野の研究者があり、こうした人々の知識や技術を結集することで大きな力を発揮できると思います。私は「うまく環境に適応しながらよりよく人生を過ごす」をコンセプトとしており、低炭素社会構築の鍵となる「民生家庭・業務部門」の温室効果ガス削減に向けた取り組み、総合的な低炭素型ライフスタイルの確立に向けた研究はもちろんのこと、徳島県の地球温暖化防止活動にも貢献したいと考えています。

これからの女性のあり方、夫婦のかたちを求めて



社団法人徳島新聞社 文化部

多田 さくらさん

多田さんは、高齢者虐待、児童虐待などの暴力を取り上げ「家庭の中の暴力」と題して徳島新聞に連載しています。夫が妻を、親が子を、あるいは子が親を日常的に傷つけているという現実。県内でも増えている家庭内暴力はなぜ起こり、どうすれば防げるのかを読者とともに考えさせるような取材をしています。

多田さんの記事を読むとDVの暴力行為のきっかけは、配偶者の肉親とのトラブル、アルコール依存などさまざまです。身体的な暴力だけではなく精神的、性的、経済的などの暴力もあり、また、目撃しただけで虐待を受けたのと同じ症状を示す子供もいることを知りました。被害を繰り返さないためには、加害者側の更生プログラムも大事だし、暴力容認の風潮をなくす教育、啓発が不可欠と関係者は訴えています。さらに高齢者虐待を取り上げ、高齢者の尊厳を傷つける心理

■多田さくらさんは当日プレゼンテーションに参加できなかったため、推薦文という形でここに掲載いたしました。

的虐待と「面倒を見てもらっているのだから」という被害者の声。介護によるストレスからの虐待も増えており、高齢化社会が抱える問題の一端が垣間見えました。児童虐待では、近年目立つネグレクト(育児放棄)問題。その背景には経済状況もありますが、「人とのつながりや生活体験の少なさなどあらゆる意味での貧しさを感じる」という児童委員の声が重く響き、22回の連載を終えました。反響は大きく、表面化しないまま深刻化する問題に対し「家庭内だけではなく、私たちみんなの問題だから」と訴える記事がありました。そのあと多田さんは「夫婦のかたち」と題し、一つの枠にとらわれないご夫婦、時間をかけて築いた二人の絆を取材していますが、何れの問題も女性として、人間として、一人一人が考え続けることだと思います。今後の多田さんの記事に期待します。



AWAおんなあきんど塾主催 【第一回 きらめく女性大賞】を振り返って



AWAおんなあきんど塾
平成22年度リーダー
(株)ココア堂 代表取締役
立川 真季

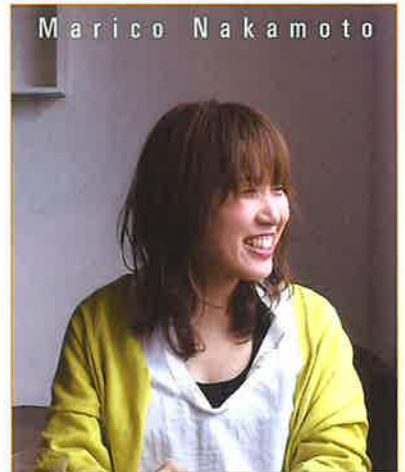
●なぜ今、【きらめく女性大賞】なのか?
『あなたの右腕はいますか?』、経営者が常に自問自答するテーマでもあります。女性経営者比率が日本一の徳島には、実は経営者を支えてくれる素晴らしいスタッフや、右腕となって頑張ってくれる管理職の存在が大きいのでは?そんな発想から生まれたのが【きらめく女性大賞】です。
徳島の企業や団体に働く女性にスポットを当て、女性にもっと活躍の場を!そして、阿波女をもっとイキイキ元気にしたい!と願い企画しました。

●熱のこもったプレゼンテーションは圧巻!
書類審査による一次選考を通過された入賞者は11名の皆さん。最終選考会では、8名の皆さんに8分間のご発表をお願いしました。当日は皆さん「超キンチョーした!」そうですが、まるで感じさせない素晴らしいプレゼンテーションでした。
企業内プロジェクト、大学内活動、町の活性化などなど...内容はさまざまですが、企業や地域に有形、無形の成果を残され、継続的な展望もお聞かせいただくことができました。

●次回に向けてのメッセージ
今回は初回の反省点も踏まえ、より多くの皆さんに気軽にご発表いただくとともに、会場に足を運んでいただけるよう広くお声掛けし、また徳島の働く女性の交流の場としてご活用いただけるよう、発展させていきたいと考えています。
ぜひ、平成23年度の【きらめく女性大賞】にご期待ください。皆さんのエントリーをお待ちしています!



work 2010 Lion [Post Card]



プロフィール ●なかもとまりこ 鳥取県出身。徳島大学大学院栄養生命科学教育部 実践栄養学分野博士課程 2年 ●管理栄養士、認定食育指導士、食生活アドバイザー、AFTカラーコーディネーター

の学生らでつくる食育サークル「caeruの会」(中本さんが代表)で、自身の食生活を把握してもらい私たちが基本知識を解説し、何をどれだけ食べたら良いかをアドバイスするという企画でした。

のんびりマイペースで イラストを発表したいです

●食に関するイラストが多いということですが?
今回の東日本大震災や原発事故でも強く感じたのですが、水や食べ物というのは私たち人間の生命の根元であると感じました。その大切な「食」の大切さをイラストやアートを通じて伝えられたらいいなと思ひまして創作活動を続けています。これまで「食べる」をテーマにした作品展を開催したり、昨年是一年暮らしで外食の多い大学生の食事を見直してもらおうと「とくしま・大学生のお弁当の日」とし、同大学常三島キャンパスでワークショップを開きました。医学部栄養学科

●将来の夢とか目標などはありますか?
現在は、主にポストカードや卓上カレンダーなどを作成して毎年徳島のカフェ・ギャラリーでイラスト展を開催しています。まだ将来の具体的なビジョンは思い浮かんでいないのですが、イラストを描くことは幼い頃から大好きなので、絵本づくりなどにもチャレンジしたり、のんびりとマイペースでイラストが描けたらいいなあ...

■インタビューを終えて/インタビュー中も絶えずにこやかに応えてくださった中本さん。輝く笑顔が素敵な方でした。そんな中本さんのイラストがもっと見たいという方は下記でチェックを。

Check <http://blogs.yahoo.co.jp/nmarico1>
Follow Twitter <http://twitter.com/#!/nmarico1>

AWAおんなあきんど塾 キャスト

